

街路樹

学力向上に向けて

< 学力向上の取り組みの中で >

現在の社会では、学習指導要領の内容の確実な習得について学校や教師の責任が問われ、基礎学力の保障や学力の向上を図る授業では、教師の授業の指導力が叫ばれています。

< 指導と評価の一体化 >

教育活動は、計画・実践・評価という一連の活動の中で子どものよさを生かしながら、子どものよりよい成長を目指して指導が展開されていますので、そのためにも指導と評価を一体化して進めることが必要です。

指導と評価の一体化に向けた授業の準備

- ・ 評価規準の設定：達成ライン（B基準）を明確にする。
- ・ 評価基準の設定：学習状況を判断するための判断基準。
- ・ 評価計画の作成：いつ、どこで、どのように評価するのか。

評価規準設定のポイント

- ・ 細かすぎない。
- ・ 誰もが無理なく使える。
- ・ 授業構成にかかわらず使える。

評価基準設定のポイント

- ・ 「関心・意欲・態度」「思考・判断」「表現」のような向上目標については、質的な違いをとらえて設定する。
- ・ 「知識・理解」など達成目標がはっきりしているものについては、数量的な違いをとらえて設定する。

評価計画作成のポイント

- ・ 指導計画と評価計画を一体的に作成。

学習状況をB基準をもとに的確にとらえ、指導・支援するためのポイント

- ・ 評価項目を焦点化。
- ・ 観察による評価と他の評価方法の併用。
- ・ 意図的・集中的に評価する場の設定。

授業の改善

「授業の展開」続き、今回は「授業のまとめ」について考えてみましょう

「導入」や「展開」に時間をかけ過ぎたため「まとめ」の時間がとれず、尻切れトンボのような授業を見ることがよくあります。「まとめ」は前時や次時との関わりから、非常に大切な時間です。

《 まとめのねらい 》

学習したことを整理し、総括する

既習事項と関連づけ、学習内容を整理させる時間です。

子どもたちの理解の状況を把握する

学習過程や結果についての自己評価や相互評価をさせる時間です。

次の学習への橋渡しの役目となる

本時の復習や次時への期待を高めさせる時間です。

《 指導技術 》 ~ 学習意欲を高める10の条件 ~

自己活動を制約しないこと。

認めてあげること。

知的範囲を拡大してやること。

競争心に訴えること。

教材の選択を適切にすること。

発問のステップを考えること。

自由に発言できる雰囲気をつくること。

ユーモア、魅力を持たせること。

獲得した知識を駆使させること。

過去の経験や知識を引き出すこと。

学習意欲を高めるための10の条件をあげてみました。

子どもの積極的な学習活動を明るくのびのびと取り組ませるために必要なことは、最初の項目にあげました「自己活動を制約しないこと」が最重要になります。

研修の感想紹介

道徳教育連携推進講座

じっくりと時間をかけて道徳教育について考えることがあまりないので、とても充実した一日でした。 (中・W)

「道徳の時間の指導案作成」では読み物資料を深く読み、授業を組み立てるよい機会になりました。 (小・M)

葛藤や気づき、感動に追い込むという例を示していただき、まさに目からウロコが落ちる思いでした。 (小・W)

道徳教育は先手先手の教育である。計画的に積極的な時間、子どもたちの豊かな心を育むための時間になるように……という言葉が大変心に残りました。 (小・W)

英語活動研修講座

他の先生方のアイデアの豊富さに驚くばかりだった。ゲームやWordの練習等とても参考になった。 (小・M)

さまざまな角度から授業を構成することが可能なんだということが分かりました。 (小・W)

A L Tをうまく活用することにより、教師が中心になって進めていけると感じた。 (小・M)

先生方との話し合いの中で、様々なアイデアが出て勉強になりました。 (中・W)

全国で様々な取り組みがなされていることがわかりました。 (中・W)